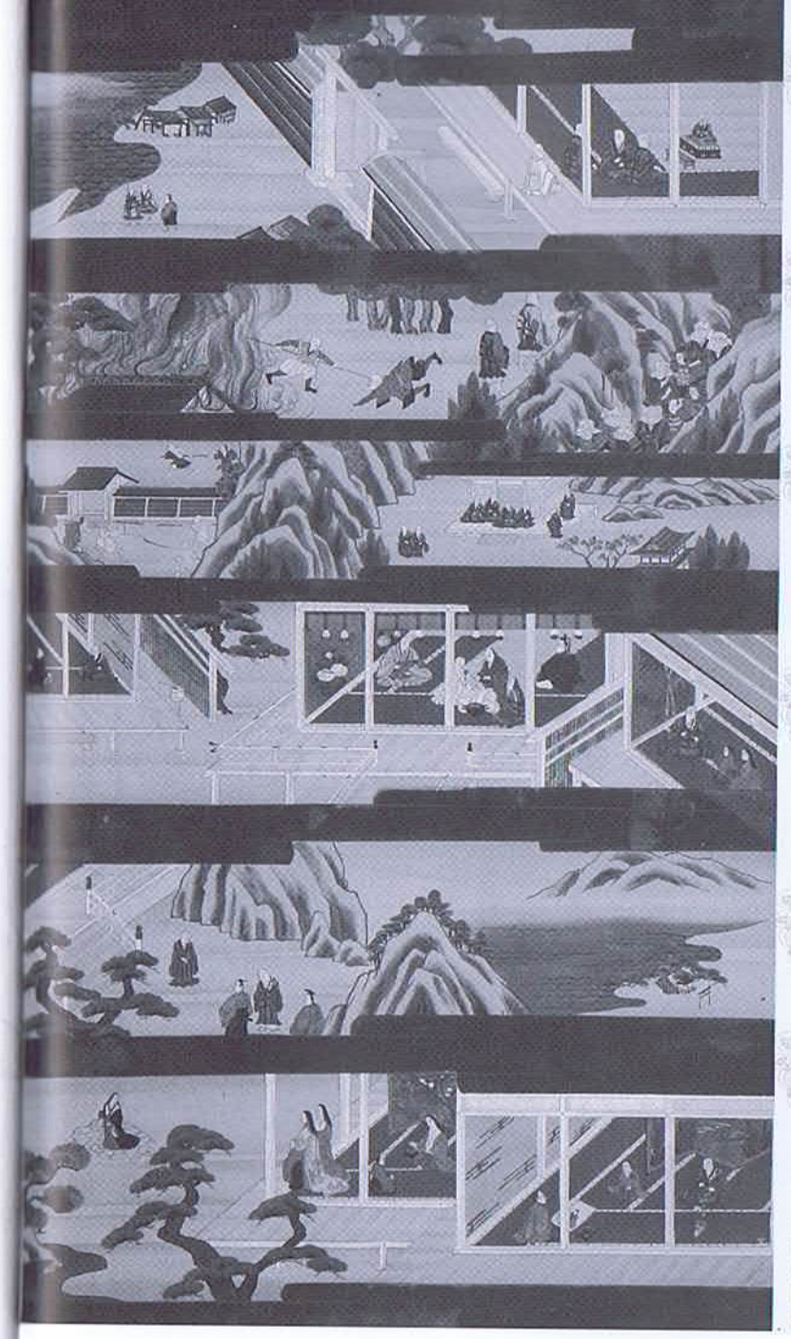
御絵伝にみる蓮如上人の生涯

観行寺住職・法雲俊邑さんに聞く



第六段

近松に御真影を移す　応仁元年(1467)、上人は宗祖の御真影を奉じて堅田から大津外戸、さらに大津三井寺の近松寺に移り、坊舎を建てて御真影を安置する。

北国に向かう　文明3年(1471)、上人は船で北国へと旅立つ。

第五段

比叡山僧兵の発向　寛政6年(1465)正月、比叡山の大衆は本願寺破却を決議し、僧兵は本願寺を襲撃する。

本願寺破却　比叡山に礼銭を送って片を付けたのも束の間、同年3月、僧兵は再び来襲し坊舎を破壊。上人は摂津に身を潜める。

第四段

真宗の繁盛　上人の教えは、近畿から東海、とくに近江の村々において共感をよび、門徒の数が増加。上人は、本尊を統一するため十字名号を門徒に授ける。

比叡山僧兵の乱暴　比叡山のふもとの村々でも本願寺門徒が繁盛するのを見て、延暦寺の僧兵は弾圧を始める。

第三段

得度　永享3年(1431)17歳の上人は広橋兼郷の猶子となって青蓮院で剃髪、得度し、法名を蓮如と称する。

修学　困窮のなか、父・存如上人、叔父・空覚上人について真宗の宗義を学ぶ。存如上人往生後、継母との確執を経て本願寺第8代を継承する。

第二段

石山寺に鹿子御影奉懸　母が去った後、近江石山寺の観音菩薩の傍らに鹿子の御影が掛かっており、母は観音さまの化身だったと驚く。

第一段

鹿子の御影　応永22年(1415)2月25日、蓮如上人は、京都東山大谷の本願寺で誕生。父は本願寺第7代存如上人。当時の本願寺は参詣する人もない寂しさ。応永27年(1420)初冬、母は、6歳の布袋丸(蓮如上人)に緋色の鹿子しぼりの小袖を着せ、絵師に肖像を描かせる。

生母別離　同年12月28日、母は蓮如に本願寺の興隆を諭し、鹿子の御影を抱いて本願寺を去る。

瑞譚が伝説化され絵伝に

15世紀、世の中は混乱に満ちていた。各地で飢饉による土一揆が起こり、都は応仁の乱によって屍で埋まった。蓮如は、そんな混沌とした世紀を生き抜いた真宗の伝道者である。頼るものもなく苦しむ民衆に、蓮如はひたすら仏を信じ南無阿弥陀仏を称えれば、すべての人が救われるのだと説いた。蓮如の易しい教えは貧しい人々を惹きつけ、なだれを打つように真宗に帰依する人たちが増えていった。それまで寂びさびとしていた本願寺は、蓮如によって最大の教団に発展したのだ。

民衆は、蓮如に圧倒的なエネルギーと神秘的な魅力を感じた。そして彼にまつわるさまざまな物語が語られ、次第に伝説化されていく。「嫁おどしの鬼面」「本向坊腹籠りの聖教」などの殉教譚や回心譚など、虚実おりなす上人像が伝えられた。『蓮如絵伝』は、そのようにして成立していった。

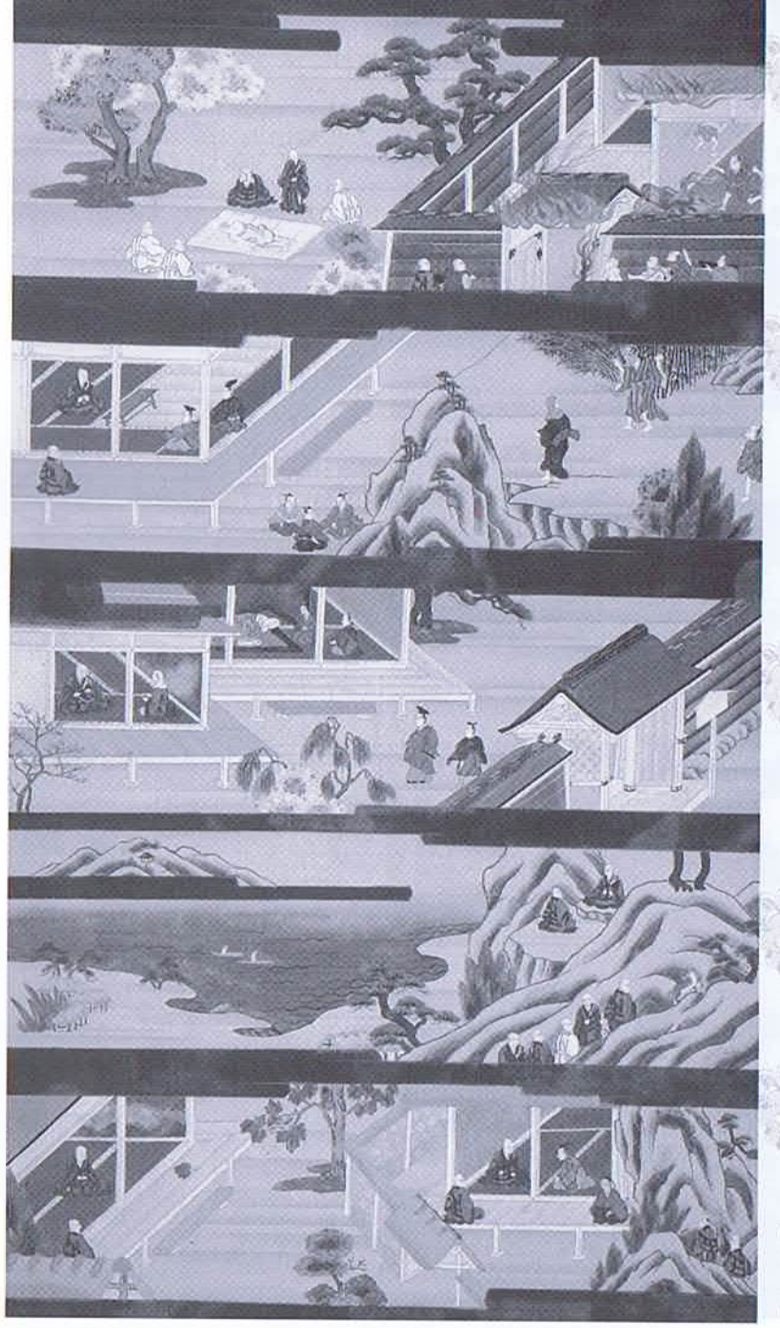
親鸞の絵伝は、本願寺が法主の裏書をつけて末寺に下付したものである。報恩講では決まって親鸞の絵伝が掲げられる。蓮如の絵伝は、親鸞の絵伝に習って描かれたものではあるが、自然に末寺に広まっていったものである。そこに蓮如の魅力を見ることができる。

天台から臨済を経て真宗へ

『蓮如絵伝』は、現在のところ全国で160あまりの寺にある。その多くが蓮如300回忌にあたる寛政10年(1798)以降に成立したといわれる。蓮如が教化した近畿・北陸・東海に多く、湖北には真宗大谷派の寺が392ヶ寺あるが、『蓮如絵伝』が伝わっているのは5ヶ寺。なかでも、米原市甲賀にある観行寺の絵伝は古く、享保10年(1725)に描かれたものであることが裏書によってわかる。

▲法雲俊邑さん

▲姉川上流の静かな集落にある観行寺



第五段

吉崎御坊炎上　文明6年(1474)3月28日、御坊の南大門から出火。本堂や北大門などが焼失する。

本向房腹籠りの聖教　了顕は、避難した蓮如上人が置き忘れた聖教を取りに戻ったものの逃れ切れず、切り開いた自分の腹の中に聖教を治めて守る。このような逸話は、山科本願寺にも伝わっている。

第四段

嫁おどしの鬼面　吉崎御坊へ通う嫁をおどそうと、鬼の面を付けて待ち伏せをする姑だったが、襲撃に失敗するだけでなく、顔から面がはずれなくなる。上人が念仏を称えると、面はするりとはずれる。

越前国主朝倉氏と対面　越前の国主朝倉孝景と氏景は、吉崎御坊に上人を訪ね法話を聞く。上人は政治権力者との関係に心を配り、争いを厳しく制止するが、ついに加賀で一揆が発生する。

第三段

見玉尼、吉崎に来る　上人の最初の妻の子である次女の見玉尼(けんぎょくに)が吉崎にやってくる。

見玉尼と対面　上人は吉崎御坊に見玉尼を迎え、対面する。

見玉尼の往生　文明4年(1472)、見玉尼は療養の甲斐なく25歳で亡くなる。

第二段

吉崎選定　文明3年(1471)5月下旬、57歳の上人は、鹿島の神鹿に導かれて吉崎に入る。信心のない念仏では往生できないと、信心正因・称名報恩を強調する。

第一段

越前教化　文明3年(1471)4月、近江を後に北国に向かう。越前北の庄の性光房は、他力念仏を説かれ上人に帰依する。

加賀教化　加賀での教化のとき、仏法僧の鳥が声高らかに鳴いて飛び立ち、人みな大いに感激する。上人は「正信偈和讃」によって教えを広める。

引き継がれていく。

こうして二十二日講は、２００余年の歴史を経て相続され、いつしか「まわり仏さん」と呼ばれるようになった。毎年湖北のまわり仏さんに集う人は延べ２万人近くになるのではないか。

「湖北の風はあたたかい」とよくいわれる。おかげさん、ありがたい、もったいない、すまんこと、ごみよさん、おあてがい、赤ちゃんもろたなど、日常的に会話されている真綿でくるんだような湖北の言葉は、まわり仏さんなどの聞法を通じ、暮らしのなかの念仏から紡ぎ出されてきたものが多いように思える。

また、まわり仏さんは、人びとの美意識や田の字型住宅の建築様式をはじめ、オコナイとともに、湖北の自治と風土と文化を形勢する大きな要素にもなってきたといえるだろう。

（国友伊知郎）

〈表２〉乗如上人二十二日講御巡化の順序（2010年）

北回り					
1	高山（鏡割）	36	美濃山	71	大音
2	留目（鏡割）	37	東柳野	72	黒田
3	高野	38	柳野中	73	坂口
4	八日市	39	西柳野	74	下余呉
5	南速水（鏡割）	40	熊野	75	中之郷
6	今西（鏡割）	41	西阿閉	76	田部
7	下八木（鏡割）	42	上山田	77	千田
8	大井	43	下山田	78	八戸
9	川道（鏡割）	44	丁野	79	東野
10	宮部（鏡割）	45	二俣	80	今市
11	中野	46	尊勝寺	81	小谷
12	西野	47	谷口	82	柳ヶ瀬
13	松尾	48	北野	83	小山
14	重則	49	山ノ前	84	石道
15	西物部	50	内保	85	古橋
16	速水	51	尊野	86	杉野
17	青名	52	木尾	87	金居原
18	猫口	53	八島	88	杉本
19	今	54	瓜生	89	尾山
20	大光寺	55	賀	90	洞戸
21	五坪	56	稲葉	91	保延寺
22	山本	57	新居	92	雨森
23	田中	58	益田	93	持寺
24	八木浜	59	東物部	94	高月北
25	難波	60	横山	95	井口
26	曽根	61	布施	96	唐川
27	五	62	東高田	97	東阿閉
28	西野	63	磯野	98	宇根
29	草野	64	木之本	99	馬上
30	寺師	65	廣瀬	100	柏原
31	高畑	66	赤尾	101	渡岸寺
32	伊部	67	北布施	102	落川
33	別所	68	西山	103	高月南
34	山脇	69	山梨子		
35	郡上	70	田居		

南回り			
1	野村（鏡割）	36	田村
2	国友（鏡割）	37	加田
3	保多（鏡割）	38	口分田
4	垣籠（鏡割）	39	今
5	朝日（鏡割）	40	南小足
6	長岡（鏡割）	41	榎木
7	須川（鏡割）	42	相撲庭西
8	列見（鏡割）	43	堀部
9	祇園	44	泉
10	相撲	45	東上坂
11	森	46	川崎
12	十里	47	相撲庭東
13	井之尻	48	西上坂
14	下之郷	49	加納
15	安福寺	50	保田
16	小澤	51	春近
17	新庄馬場	52	石田
18	八幡東	53	三田
19	八幡中山	54	大路
20	神照	55	大依
21	南高田	56	西主計
22	宮司西	57	東主計
23	小堀	58	甲賀
24	宮司東	59	甲津原
25	南田附	60	上板並
26	田附東	61	下板並
27	七条	62	曲谷
28	八条		
29	鳥羽上南		
30	本庄		
31	永久寺		
32	下坂中		
33	平方		
34	下坂浜		
35	寺田		

＊北回り、南回りとも、大通寺の総会所でお預かりのあと12月26日から1月8日まで御越年が営まれた。この年の当番は大鹿（山東13組南）。

そのほかのおもな まわり仏さん

下寄十三日講（下寄講）

湖北十ヶ寺の下で寄り合う長浜市域の真宗寺院12ヶ寺によって組織。証如上人から、親鸞筆十字名号を下付された恩を偲び、上人の命日である13日に12ヶ寺が集うようになったのが起源とされる。毎年10月から11月にかけて行われる。

湯次方

湯次誓願寺のもとで、関ヶ原合戦時、教如上人の帰途を援護した22ヶ寺によって、「大講」「教如さん」が営まれる。「大講」は、11月3～4日の御遠忌に、上人の掛け軸や古い賛をかけて行われる。「教如さん」は、教如とその父顕如の絵像が1年かけて巡回する。

五日講

教如上人の忌日にちなんだもので、長浜市西上坂町内の4つの組で1月5～8日に行われる。

二十四日講

浄土真宗本願寺派の、岐阜、東浅井郡、坂田郡の22ヶ寺によっておこなわれる。法如、本如の絵像と、広如の御消息が回される。

▶法如上人と本如上人の御影が掛けられる浄土真宗本願寺派（西本願寺）の二十四日講

乗如上人二十二日講巡化

（2010年の場合）

〈表１〉二十二日講勤修組織表

組	小組	図１上の番号	巡化
坂田郡山東	十三組北	①	南回り
	十三組東	②	
	十三組南	③	
坂田郡山西	十八組	④	
	十九組	⑤	
	二十組	⑥	
旧長浜町		⑦	
東浅井郡上浅井	二十一組	⑧	
	二十二組	⑨	北回り
	二十三組	⑩	
	二十四組	⑪	
東浅井郡下浅井	北部上組	⑫	
	北部下組	⑬	
	南部上組	⑭	
	南部下組	⑮	
伊香郡		⑯	

※⑦旧長浜町は、組織として明確な担い手を持たず、大通寺総会所が代行する。

おもな参考文献

『長浜市史』・満徳寺住職・佐藤義成さんによる調査資料